
折紙&ローズ

MONSU

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

折紙&ローズ

【Nコード】

N2372W

【作者名】

MONSU

【あらすじ】

とある国の大都市・シュテルンビルト。街の平和を守るNEXT（特殊能力を持った人間）が存在する。彼らの活躍ぶりは専用の特別番組「HERO TV」で中継され、その年の「キングオブヒーロー」（最も活躍したヒーロー）の座を巡るランキング争いを続けていた。

序章（前書き）

この話は、いわゆる物語の裏側的なやつですな。ブルーローズの略仕方が分からないので、作中では、フルネームで書きます。

序章

とある国の大都市・シユテルンビルト。

街の平和を守るNEXT（特殊能力を持った人間）が存在する。

彼らの活躍ぶりは専用の特別番組「HERO TV」で中継され、その年の「キングオブヒーロー」（最も活躍したヒーロー）の座を巡るランキング争いを続けていた。

1位 バーナビー・ブルックスJr.

2位 ワイルドタイガー

3位 ブルーローズ

・・・最下位 折紙サイクロン

「また、僕、最下位ですか・・・」

「落ち込んでんじゃ無いわよ！もうちょっと頑張れば？ロックバイソンぐらいは、抜けるわよ？」

「それは、どういう意味だ！ブルーローズ！」

ロックバイソンが怒ったと思ったら、折紙とブルーローズのPDAに連絡が入り、

「折紙サイクロン、ブルーローズ、君たち二人には1ヶ月コンビを組んでもらう。折紙&ローズとして。」プチッ。切れた

「はぁ？折紙とコンビ？しかも何で、私の名前の方が後なのよ！」

「僕・・・どうしたら良いのかな・・・コンビなんて組んだこと無いし、見切れるのと変装しか出来ないし・・・」

「折紙なら、出来るさ！俺が保証する！な！バーニー！」

「そうですね。折紙さんなら出来ますよ。」

「ちよつと！タイガー！？あんだ折紙、折紙って、私にかけ言葉は無いの!？」

「良いんじゃないか？お前は強いし、折紙を守ってやってくれ。」
タイガーの言葉に少し照れたのか、ブルーローズは、顔を隠しながら小声で言った。

「タイガーが言うなら・・・しようがないわね・・・」

「あっ！また照れてる！」

ドラゴンキッドがブルーローズをからかった。

「そんなんじゃない・・・ないわよ・・・」

次の日から、折紙とブルーローズのコンビがスタートする・・・

序章（後書き）

第一話は、ただの序章ですから、この後の話も読んでいただけたら嬉しいです。

初事件！？（前書き）

初事件です！さあー！犯人は一人のNEXTってわけで、いきなりピンチになってしまう！

果たして！どうなる！

初事件！？

「今回も始まりました！HERO-TV！今回の犯人は・・・おおつと！犯人はNEXTのようです！能力は、精神操作のような感じですよ！さあー誰が最も早く犯人逮捕するのか！」

「私の氷はちよっぴりコールド、あなたの悪事を完全ホールド！」
「でござる」

「おおーつと、一番早かったのは、コンビを組んで初事件の、折紙& amp;ローズだー！さあー初仕事ですが、どんな感じになるのでしょうか！？」

「あんだね？シユテルンビルトの人達を変にしたのは！」

「そうだけど？それがどうしたのかしら？私達には何をやっても勝て・な・い わよ！」

そう犯人は言い放つと、能力を使った。

キューーン！ピカッ！

犯人が光ったと思ったら、辺りが一瞬、真っ白になった。

視界が戻ったが、ブルーローズがいなかった・・・

「ブルーローズどの！どこに行ったでござる！」

「わたしなんか・・・どうせ・・・いつも・・・照れてばっかで・・・

どうせ何も言えないし・・・」

「どうしたんでござるか!？」

「私の能力よ。私の能力名は、ナガティブ。相手が1日間ネガティブに考えるようになるのよ。」

「なんと！ブルーローズは犯人の能力を受けてしまったー！さあー折紙サイクロン！どうする！」

壁の前でもじもじするブルーローズ、自分には何が出来るかわからない折紙・・・っと、その時近くにいた人達も、ネガティブになっていたことに、折紙は気づいた。

「なぜ！何故だ！その忍者ヒーローは、かからない!？」

「おーっと！どうしたんでしょうか？どうやら犯人の能力は、近にいる人間をネガティブにしてしまうようなんですが・・・折紙サイクロンには効いておりません！一体、どうなってるんでしょうか？」

「普段の拙者は・・・ネガティブ思考でござるから・・・」

「おーっと!？こんな時にカミングアウトか!？」

「そ・・・そんな・・・ことが・・・あつてたまるかー！」

少し泣きそうな犯人は、叫びながら、突進してきた。

「無駄でござる！そんな細い腕で・・・勝てるわけ無いでござる！」

ごもつともだつた・・・突進してきた犯人に対して折紙は、かなり軽く背負い投げ?のようなものを浴びせ、そのまま逮捕

「おっと！折紙サイクロン一人で犯人逮捕だー！少し珍しい気もします」

「折紙・・・あなた・・・頑張ったわね・・・あたしとは全然違うからね・・・」

ブルーローズは、やはり、ネガティブなままだ・・・

折紙は、そんなブルーローズを担いで会社に戻った・・・

初事件！？（後書き）

どうでしょうか？

二人での初仕事の様子は？

良かったですか？

また見てくれますか？

次回・・・祝い・・・？

祝い・・・？（前書き）

短いですが、どうぞご覧ください！

祝い・・・？

事件後・・・皆はいつものトレーニングルームにいた。

「お手柄だったな！折紙！今日は、大活躍だったな！」
タイガーが折紙を褒めた。

「コンビ初仕事達成、おめでとう！そして、おめでとう！」
折紙の肩に手をおいて褒める、スカイハイ。

「今回は、お前に犯人を譲ってやったんだ！次は負けんぞ！」

犯人を譲ってやったんだ！・・・とか言ってるクセに、最後に負けん！つとか言ってるロツクバイソン。（笑）

「もうちよつとで僕も現場に着いたのに！」
ドラゴンキッドは・・・いつも通りだ。

「お疲れさまでした。折紙さん」
バーナビーは、いつも通り、冷静であった。

「コンビ初仕事完了、おめでとう お礼にチュウして、ア・ゲ・る」

「嫌ですよ！」

「あら～ そんなに嫌がらなくても良いじゃないの！？」

やっぱり変態チックなファイヤーエンブレム。

「私は、足手まとい・・・だったでしょ・・・？」

「そんなことは無いですよ。ブルーローズさんがいなかったら、相手の能力も分からなかったんです！ありがとうございます！」

「それは、違うわよ・・・私が勝手に相手の能力を受けただけ・・・そのせいで、あなたは一人で戦うことに・・・」

「それは、違いますよ！ブルーローズさんがいたから、勇気が出たんですよ！」

ネガティブなブルーローズに、慰めを行う！折紙であった・・・

まだ、犯人の能力を受けたまま治らず、ネガティブなままのブルーローズであった。

そんなブルーローズを見て、皆は大笑いしていた。

祝い・・・？（後書き）

何か・・・文字少なすぎたかな・・・
まあ〜いつか〜

事件後の話だし

続きを悲しげに待っててください！（笑）

復活！！…そして…（前書き）

前回、犯人の能力によってネガティブになっていたブルーローズが
復活！！（笑）

復活!!!…そして…

次の日、ヒーロー達は集まっていた。

「大丈夫か？ブルーローズ」

「タイガーに言われたく無いわよ！」

「虎鉄さんは、あなたを心配して言ってるんです！」

「まああれだ！怒れるってことは、元気だって証拠だろ」話を慌てて終わらす虎鉄であった。

「今日も頑張りましょう…」

「あなたがネガティブになってるじゃない！」

「いつものことですよ…」

「二人はまるで夫婦喧嘩みたいだね」

折紙とブルーローズが喧嘩をしていると、ドラゴンキッドが二人をいじり始める。

「何言ってるのよ!…私はタイガーのことが……」

「ブルーローズ、俺がどうしたって？」

「何も……言っていないわよ!」「言っていないわよ!」…ですって

「この子、しらを切るつもりかしら」嘘でしょ あんたもたまには正直になりなさいよ」

ファイヤーエンブレムによる突っ込みが入ったが……

「ホントに何も言っていないわよ!？」

「僕はブルーローズさんの後ろにいましたけど、確かに何も言っていないです。」

「ってことは…?」

折紙の言葉に、虎鉄は確信をした。

「ここどこかに俺達以外のNEXTがいる！」

虎鉄が叫んだ時、無人の扉が開いた。

扉の先にも、誰もいなかった。

「逃げたな」

「逃げましたね」

ロックバイソンが落ち着きながら言い、それに冷静に繰り返すバーナビー。

「んなこと言ってる暇は無い！行くぞ！」

虎鉄はそう言いながら走っていった……その途中で、虎鉄はバーナビーに話し掛けていた。

「今追い掛けているNEXTってさあ、ブルーローズのカッコしてたやつと一緒の能力なのか？」

「分かりませんが、そう考えて良いでしょ？」

その頃、二人の早さにおいてかれた残りのヒーロー達は、円陣？を組んでいた。

「行きます！」

「行きましょう！」

「行こう！」

「行くか！」

「行くわよ！」

「行こう！そして行こう！」

折紙サイクロン、ブルーローズ、ドラゴンキッド、ロックバイソン、ファイヤーエンブレム、スカイハイの順で気合を入れる。

「何やってんのあんた達は！早く犯人追っかけなさい！」

「何の犯人なのよ？」

「実は、今タイガー達が追い掛けているNEXTは、最近流行ってる強盗事件の犯人の可能性が高いの！防犯カメラにも映ってないし、消えるしか方法が無いもの」

「なんだって！そんなことがあって良いのか！！」

キレルスカイハイ。

「見えないのに、どうやって戦うの？」
ブルーローズの言葉に、その通りだ！、と言わんばかりにみんな悩み始めた。

「そんなことより、先にヒーロースーツ着ない？」

ドラゴンキッドの鋭いツッコミが炸裂！

「……あっ！」「……」

忘れてた！！とは、言わなかったが…全員の顔がそんな感じだった

…

復活!!…そして…(後書き)

「どうも!!折紙達の話しなのに、次回予告をしちゃう方、虎鉄です!!何かスゴいことになってきてるけど、大丈夫なのか?俺とバニーが犯人追っかけている時にあいつらしゃべってるし…次回!!…いつつ…らいく…あ……まるで夢のようだ。」

It's like a dream come true.まるで夢のようだ。

今回から次回予告を、アニメのやつに近い感じでやります。ちなみに上のやつは、虎鉄が言えなくて、挫折しているだけで…次回言ってるわけではないので〜

まるで夢のようだ(前書き)

久しぶりの投稿です。

まるで夢のようだ

「今回も始まりましたー！ヒーローTVー！今回の犯人は、消えるようですよ！赤外線カメラでも見えないー！さあーいつもの様にTIGER & amp ; BUNBYが一番乗りですー！が…犯人は一体…」
「ボンジュール？ヒーロー！今回の犯人は、あの消える変態みたいなんじゃないわよ？もっとスゴイヤツ！今回も、視聴率じゃん！じゃん！ヨロシクね！」

「あのさあ？あんたって…コンビになって良かったな…って思ったことある？まだ二日目だけど…」

「え？ブルーローズどの？いきなりどうしたでござるか？」

「私が…そんなこと聞いたら悪いの？」

「そんなことはないでござるが…良かったな…って思ったことはあるでござるよ」

「どんな時よ？」

「実は拙者…」

「実は？」

「これ以上は言えないでござるよ」

「なんなのよ！早く言いなさい…」

二人が話していると、通信が入った。

「あんた達？喋ってないで、早く戦いなさいよ」

「ファイヤーエンブレムは軽く言った…戦いなさいよ…って言う前に、犯人見つかっていないんだけど…」

「犯人はどこにいますでござるか？」

「まだ、誰も見つけて無いのよ…」

「あー！もう！監視カメラとか色々使っても見つからないのに、足

で探して見つかったの!？」
「ブルーローズ、何を怒ってるんだ?もしかして…折紙と喋ってたのを邪魔されたから、怒ってるんだな?」
笑いながら、通信をしてくるタイガーの一言に、皆が話すのを止め、犯人の捜索に出た。

「なあ?バニー?俺なんか悪いこと言ったか?」

「虎鉄さん…はい、あなたは、悪いことを言いました。」

「どこだよ?」

「全部ですよ」

「何でだよ」

「それは、ブルーローズさんが、虎鉄さんのことがす…」

「それ以上は言っちゃだめだからね!!」

TIGER & amp; BUNNYの会話に割って入るブルーローズ。

「スイマセン、ブルーローズさん…」

「まあ…そんなことどうでも言い、バニー!早く犯人探すぞ!」

「わかりました虎鉄さん!」

「どうしてらあの二人はカップル…仲良くなるのかしら!？」

「さあ…?タイガーは、気づかないし、ブルーローズは告白しないしよ。」

「早く言っちゃえば良いのにね」

バカなことにファイヤーエンブレムとドラゴンキッドは、通信を使っ
って話していた…

その話をそらさず聞いていたものがいた。

「ドラゴンキッド?ブルーローズが、俺が何を気づいてないって?」

「知らないよ？僕は、何も。」
「なんか知ってるだろ。」
「あら？そんなに気になるんだったら、自分で聞きなさいよ」
「本人も聞いているだろうし」
「な…何を言ってるの！？私は、何も聞いてないし、タイガーに隠し事しても無いわよ！！」
「聞いてないなら、そこまで動揺しないし、そこまで詳しく知らないはずだよ？」
「そ……そうだけど……」
「やっぱり聞いていたんだね？」と、ドラゴンキッドが言うとブルーローズは黙ってしまった……
「っで？ブルーローズ…俺に何を隠してるんだ」
「実は、ブルーローズはタイガーがス…」最後まで言いそうになつた時、ブルーローズが叫んだ。
「犯人！犯人がいたわよ！」
その声に、タイガーは反応して、
「今すぐ行くから、犯人足止めしてる！行くぞ！バニー！」
「もう、向かってます。」
「そりゃ、バイクだもんな……」

その頃…折紙はというと…

ブルーローズの前方5kmの地点にいた。もちろんさっきの話も全て聞いていた。

「ブルーローズどのが、犯人を見つけたでござるから、拙者も行っ

て挟み撃ちにするべきでござるか？ いやいや、ブルーローズどののは、バイクに乗っているでござるから、犯人を走らせて息切れさせたところ、こちらから挟み撃ちでござるな！」

「そんなこと、疲れるわよ！」

「いやいや！？ブルーローズどののはバイクに乗っているでござるから、あまり疲れないでござる。」

「あつ…そうだよ、バイク乗っているんだもんね」

その時、「眠った時間分しか能力使えないし、一回どっかで眠るか…一昨日はかなり眠ったんだが…持ち越し出来ないから不便だなあ…」
という小さい声だが、聞こえた…バイクの前から…！？

ブルーローズは、試しに氷の塊を目の前に放つて見たら…案の定、犯人はバイクの先端に座っており、後頭部に塊が直撃してしまつて…犯人能力切れる。見える。脳震盪でバイクから落ちる。ブルーローズが犯人確保。折紙は…無駄骨。(笑)

「ブルーローズどの！お疲れ様でござる」

「ありが…と……」

バタッ！

「どう…したで…いぢ…る」

バタッ！

二人は倒れてしまった…

折紙が目を覚ました。

隣にはブルーローズ・タイガー・ドラゴンキッド・ファイヤーエンブレム・ロックバイソン・バーナビー・スカイハイが寝ていた。道端で。

「みんな！起きるでござるよー！」

折紙は、みんなを起こそうとするが起きない。

「う…うーん？」

ブルーローズだけは、起きた。

「みんな…何があつたの？」

「何がおきてるでござる！？」

「みんな起きなさいよ！……！……！……！……！」

……

返事がない……みんな寝ているようだ

「NEXTの仕業でござる！きつとー！」

「でも…私達だけ起きてるのは、おかしくない？」

「多分でござるが、拙者達は眠っている間に、夢の中の犯人を捕まえたからでは、ござらんか？」

「そんなわけ……」

二人が討論をしている時、何処かから声が聞こえてきた。

「良く分かりましたね 分かったあなた達には、死のプレゼントを差し上げましょう!!」

だが…声がするだけで、何の姿も見えない…。

そんなとき、眠っていたタイガーの体が動き始め、スーツが、能力発動の光を放った。

「タイガー！目が覚めたのね!？」

……返事がない……!？

「どういうこと?え?能力発動してるのに……」

「タイガーどの!返事をするでござる!」

「無駄!無駄!無駄!無駄!無駄!無駄!無駄!無駄!無駄!無駄!無駄!
!無駄!ワイルドタイガーは今!夢の中で犯人を追いかけている!
もちろん、犯人は、あなた達と同じ二人組 しかも?夢の中と、現実を混ぜてあるから、あなた達の動きと連動になってるから……って、こ・と・は?あなた達をワイルドタイガーが襲うってこと」

犯人は挑発をかけて来た。

「災厄ね!洗脳なんてやめなさい!」

まるで夢のようだ（後書き）

「HAY!この二次創作で、ほとんど出番が無い方のバーナビーです。どうすれば良いんだ！僕達は眠らされてしまっていて、虎鉄さんは洗脳されてしまっている、折紙さん達までもが眠らされてしまつて……。次回 after long dream and NEXT」

次回 最終回 after long dream and NEXT
XT・長い夢…そしてNEXT・

長い夢…そしてNEXT

……

「良かった！目が覚めたんだね？」

「もうう 心配しちゃったじゃない？」

「折紙さん。大丈夫ですか？」

気がつくとも折紙は病院のベッドの上にあった。

口には酸素マスク、腕には点滴、まるで病人のようだ。

「だ、大丈夫ですけど……僕は……何で病院にいるんですか？」
体を起こしながら三人に聞いた。

「僕達が犯人追っかけてる時に、一瞬だけ、変なNEXTが現れて、君達が眠らされたんだ。」

「私たち、犯人追っかけるのに必死で、気が回らなかったのよ」

「何でそんなにノリノリ何ですか？」

「ファイヤーエンブレムのテンションに冷静にツツコミを入れるバーナビーであった。」

その頃、違う病室では……

「ブルーローズ！目が覚めたのか！良かった」

「ブルーローズ。良かったな！虎鉄の奴、仕事の時以外ずっと一緒にいて、お前が目を覚ますのを待ってたんだぜ？」

「え？ずっと一緒に？タイガーが？？ど……どうい……こと？ロックバイソンの言葉にブルーローズは照れて、布団を鼻まで上げた。

「そ……それで？な……何で私……病院で……？」

「お前？覚えて無いか？いきなり変なNEXTが現れて、お前と折紙が眠らされたんだよ。眠らされる感覚みたいなの無かったのか？」

タイガーは、少し笑いながら言った。

「な……無かったわよ！気がつかなくて、悪かったわね！」

ブルーローズは怒って、布団にくるまってしまった。

「悪い悪い。ちよつと折紙の様子見てくつから、またな」

タイガーは後ろ向きで手をあげながら、病室を出て言った。

「俺も、虎鉄と一緒に折紙のところに行ってくる。」

「あんたは、早く行きなさい！」

ブルーローズは何故かロックバイソンを怒った。ロックバイソンは足早に病室を出て行った。

ブルーローズは、病室で一人になった。

「わ……私のために……タイガーが……ずっと一緒に……！」

ブルーローズは何か嫌な予感を察知し、ドアの方を見ると、ファイヤーエンブレムが、覗いていた。

「あら〜 見つかった？」

「み、見てたの！？」

「見てたわよ〜」

「た……タイガーには内緒だからね……」

「分かってるって〜」

「は！？ドラゴンキッド！？何であんたも！？」

ファイヤーエンブレムの後ろから、ドラゴンキッドが現れた。

「僕が居たらダメなの？」

ドラゴンキッドが呟いたその時……………

ビー！ビー！ビー！

全員のPDAが鳴った。

「ボンジュール？ヒーロー。事件発生よ！至急現場に急いで！」
アニエスから連絡が入った。

「私と折紙のコンビは？」

「何言ってるんだ？コンビ？」

ロックバイソンがツツコミを入れた。

「ど……………どういうことでござる？コンビ解散でござるか？」

「なあ？折紙も頭おかしくなっちゃったか？」

またまたロックバイソンがツツコミ入れた。

「………つてことは、二重の夢落ち！！！？？」

折紙& amp;ローズはPDA越しにハモった。

「お前ら無駄な話してないで、行くぞ！ヒーローは市民を助けるために生きるんだ。」

タイガーは言った。「た……………タイガーには内緒だからね……………」

「分かってるって〜」

「は！？ドラゴンキッド！？何であんたも！？」

ファイヤーエンブレムの後ろから、ドラゴンキッドが現れた。

「僕が居たらダメなの？」

ドラゴンキッドが呟いたその時……………

ビー！ビー！ビー！

全員のPDAが鳴った

長い夢…そしてNEXT（後書き）

「どうだったでござるか？良ければ他の作品も見て上げて下さい！」
「み、見なさいよね！……！」

また見てください！

「ありがとう！そして、ありがとう！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2372w/>

折紙&ロース

2011年12月24日01時53分発行